

サウンドバー

取扱説明書

準備する

映像を見る

音楽／音声を聞く

ネットワークにつないで
音楽を聞く

音量や音質を調整する

テレビと連携して使う

設定を変更する

困ったときは

その他



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

**警告**

安全のために

(→ 66 ページ～71 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

66～71 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。72 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く

目次

本機のマニュアルについて	5
--------------------	---

箱の中身を確認する	→	スタートガイド(別紙)をご覧ください。
-----------	---	---------------------

本機でできること	6
各部の名称とはたらき	8
ホームメニューの使いかた	12

準備する

本機を設置する	13
テレビとつなぐ	16
テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は	17
AV機器とつなぐ	18
電源につなぐ	20
初期設定をする	21

映像を見る

テレビを見る	22
AV機器を再生する	22

音楽／音声を聞く

BLUETOOTH®機能でソニー製テレビの音声を聞く	23
BLUETOOTH機能で音楽／音声を聞く	26
USB機器の音楽を聞く	28
アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音楽を聞く	29
テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く	30

ネットワークにつないで音楽を聞く

ネットワークにつないで できること	33
----------------------------	----

音量や音質を調整する

音量を調節する	35
上から包まれる臨場感を体験する (IMMERSIVE AE)	36
音源に合わせたサウンド効果に 設定する(サウンドモード)	37
セリフを聞きやすくする (ボイス)	38
深夜の小音量時でも明瞭感のあるサ ウンドで楽しむ (ナイトモード)	38
音声と映像のずれを調整する	39
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)	40
DTS:X再生中にセリフの音量を 調節する	41

テレビと連携して使う

テレビと本機を連携して操作する (HDMI機器制御機能)	42
“ブラビアリンク”対応テレビと本機を 連携して操作する	44

設定を変更する

表示窓とランプの明るさを調整する （本体表示）	45
スタンバイ時の待機電力を 抑える	46
かんたん設定を行う	46
詳細設定をする	47
ソフトウェアをアップデートする	48

困ったときは

故障かな？と思ったら	50
初期化する	59

その他

主な仕様	60
再生できる音声ファイルの種類	62
入力できる音声フォーマット	63
BLUETOOTH無線技術について	64
安全のために	66
使用上のご注意	72
商標とライセンスについて	74
保証書とアフターサービス	76
索引	77

重要—本製品の使用を開始される前に必ず、ソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

お客様による本製品の使用開始をもって、お客様がソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただけたものとさせていただきます。お客様と弊社との間のソフトウェア使用許諾契約書は、弊社ウェブサイト (<https://rd1.sony.net/help/ht/eula21/ja/>) でご覧いただけます。

本機のマニュアルについて

本機のマニュアルで説明している内容は次のとおりです。

スタートガイド



本機を使い始めるまでに必要な設置、接続と、音楽を再生するまでの操作を説明しています。

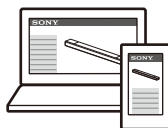
取扱説明書（本書）



本機の基本的な使いかたを説明しています。

- ーテレビや他機器との接続のしかた
 - ーHDMIケーブルやBLUETOOTH機能でつないだ機器の音楽／音声の再生のしかた
 - ー音質調節のしかた
- など

ヘルプガイド（Web取扱説明書）



<https://rd1.sony.net/help/ht/a7000/ja/>



本機の応用的な使いかたも含めて、すべての使いかたを説明しています。

- ーネットワーク機能を使った音楽／音声の再生のしかた
 - ーメニューの詳細の説明
- など

ちょっと一言

- 本書では主にリモコンによる操作を説明しています。リモコンのボタン名とバースピーカーのボタン名が同じ名称の場合は、バースピーカーのボタンで同じ操作ができます。
- [-] カッコの中に書かれている文字はテレビ画面もしくは表示窓に表示されます。
- 本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

箱の中身を確認する

スタートガイド（別紙）をご覧ください。

本機でできること

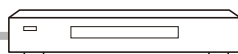
本機はDolby Atmos、DTS:Xなどのオブジェクトオーディオフォーマット、HDR10、HLG、Dolby VisionなどのHDR映像フォーマットに対応しています。

テレビ



- 「テレビを見る」(22ページ)
- 「BLUETOOTH®機能でソニー製テレビの音声を聞く」(23ページ)

ブルーレイディスク™レコーダー、ケーブルテレビ (CATV) ボックス、またはゲーム機など

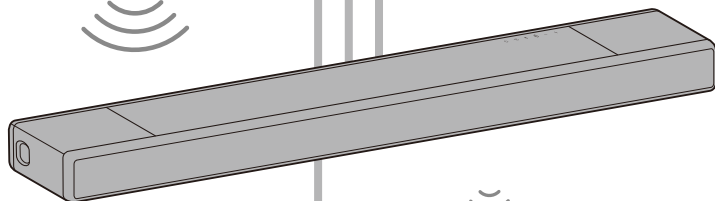


「AV機器を再生する」
(22ページ)

USB機器



「USB機器の音楽を聞く」
(28ページ)



モバイル機器



- 「BLUETOOTH機能で音楽／音声を聞く」(26ページ)
- 「アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音楽を聞く」(29ページ)

ヘッドホン



「テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く」
(30ページ)

ネットワーク



「ネットワークにつないでできること」(33ページ)

ネットワークへの接続方法やネットワークに接続して使える機能について詳しい内容は、ヘルプガイド(Web取扱説明書)をご覧ください。

<https://rd1.sony.net/help/ht/a7000/ja/>



別売スピーカー

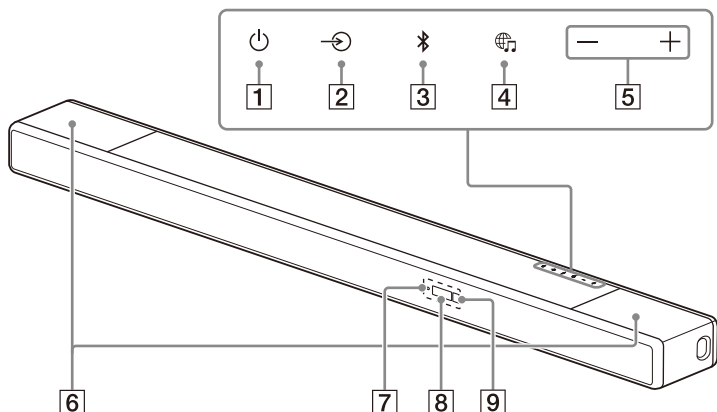


別売のリアスピーカー／サブウーファーの操作については、別売のリアスピーカー／サブウーファーに付属の取扱説明書をご覧ください。
本機に対応している別売のリアスピーカー／サブウーファーは、ソニーのホームページでご確認ください。

各部の名称とはたらき

ベーススピーカー

正面



① 〇（電源）ボタン

本機の電源を入れます。本機の電源が入っているときに押すと、本機がスタンバイ状態になります。

② 〰️（入力切換）ボタン

本機で再生する入力を選びます。

③ BLUETOOTHボタン（26ページ）

④ 地球儀（ミュージックサービス）ボタン

本機でSpotifyの音楽を一度再生したことがあると、その続きを再生することができます。

⑤ + / -（音量）ボタン

⑥ トップスピーカー

上方向に音を出力するスピーカーです。

ご注意

上に物を置いたり不用意に触れないようにしてください。

⑦ BLUETOOTHランプ

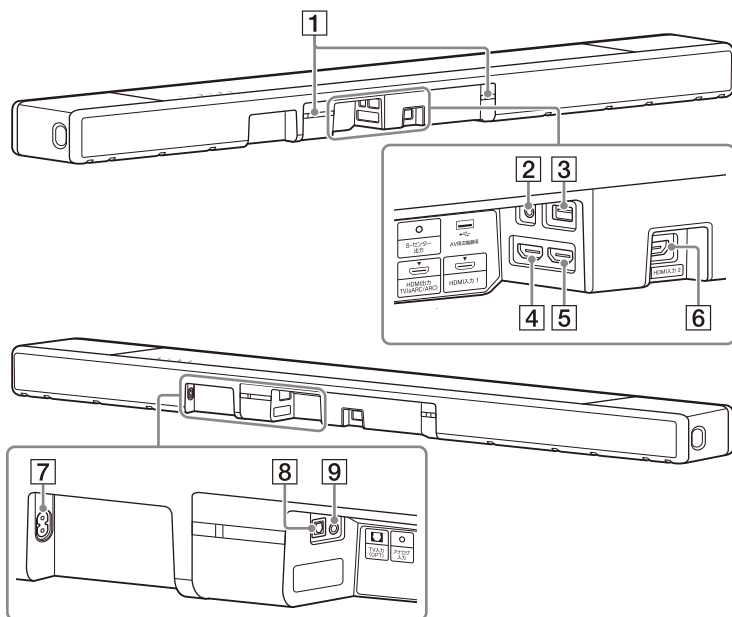
- 青色で速く点滅：BLUETOOTH機器登録（ペアリング）待ち状態です。
- 青色で点滅：BLUETOOTH接続待ち状態です。
- 青色で点灯：BLUETOOTH機器とBLUETOOTH接続されています。

⑧ 表示窓

⑨ リモコン受光部

リモコンをベーススピーカーの受光部に向けて操作してください。

背面



① IRリピーター

バースピーカーが受けたテレビのリモコン信号をテレビに転送します。

② S-センター出力端子 (17ページ)

③ USB 端子 (AV周辺機器用) (28ページ)

④ HDMI出力 (TV (eARC/ARC)) 端子

HDMI入力端子のあるテレビをHDMIケーブルでつなぎます。本機はeARCおよびARCに対応しています。ARCとはHDMIケーブルを通して、テレビの音声をテレビのHDMI端子から本機などのAV機器に送る機能です。eARCはこのARCを拡張したもので、ARCでは伝送できなかったオブジェクトオーディオやマルチチャ

ンネルLPCMの伝送が可能になります。

⑤ HDMI入力 1端子

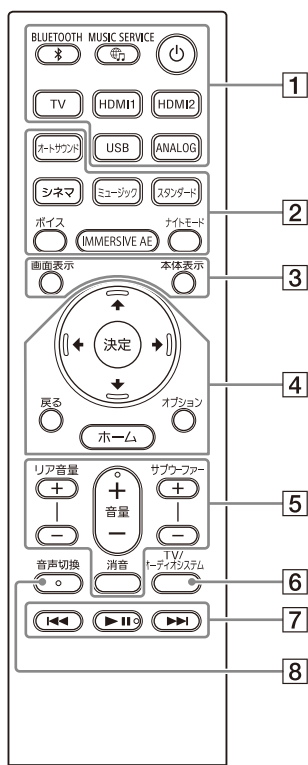
⑥ HDMI入力 2端子

⑦ AC入力端子

⑧ TV入力 (OPT) (テレビ入力 (光デジタル)) 端子

⑨ アナログ入力端子

リモコン



1 電源 ボタン

本機の電源を入れます。本機の電源が入っているときに押すと、本機がスタンバイ状態になります。

MUSIC SERVICE (ミュージックサービス) ボタン

本機でSpotifyの音楽を一度再生したことがあると、その続きを再生することができます。

BLUETOOTHボタン (26ページ)

TVボタン (22ページ)

HDMI1ボタン (22ページ)

HDMI2ボタン (22ページ)

USBボタン (28ページ)

ANALOGボタン (29ページ)

2 オートサウンドボタン (37ページ)

シネマボタン (37ページ)

ミュージックボタン (37ページ)

スタンダードボタン (37ページ)

ボイスボタン (38ページ)

IMMERSIVE AE (Immersive Audio Enhancement) ボタン (36ページ)

ナイトモードボタン (38ページ)

3 本体表示ボタン (45ページ)

画面表示ボタン

再生情報をテレビ画面に表示します。テレビ入力の場合は表示窓に再生情報を表示します。

[4] ♣/♥/♦/♠ボタン (12ページ)

決定ボタン (12ページ)

戻るボタン (12ページ)

オプションボタン (41ページ)

オプションメニューをテレビ画面に表示します。

テレビ入力の場合は表示窓にオプションメニューを表示します。

ホームボタン (12ページ)

[5] リア音量+／－ボタン

リアスピーカー（別売）をつないでいるときに、リアスピーカーの音量を調節します。

音量+＊／－ボタン

音量を調節します。

サブウーファー+／－ボタン

内蔵サブウーファー（または別売のサブウーファー）の音量を調節します。

消音ボタン

音を一時的に消します。

[6] TV/オーディオシステムボタン

つないでいるテレビの音声の出力先を本機、またはテレビで切り換えます。

ご注意

このボタンは次の条件のときに働きます。

一本機をつないでいるテレビがシステムオーディオコントロール機能に対応している。

一本機のHDMI機器制御機能をオンしている（42ページ）。

[7] 再生操作ボタン

◀◀／▶▶ (前へ／次へ) ボタン

前または次のトラック／ファイルを選びます。

再生中に押したままにすると早戻し／早送りできます。

▶|| (再生／一時停止) ボタン*

再生を開始します。再生中に押すと一時停止し、一時停止中に押すと再生を再開します。

[8] 音声切換ボタン* (40ページ)

* 音声切換ボタン、▶|| (再生／一時停止) ボタン、音量+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

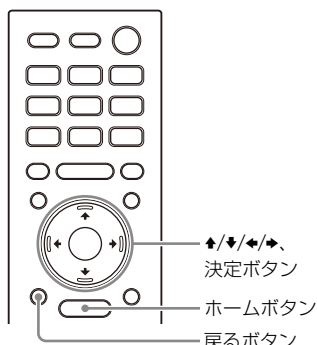
電池交換について

リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものに取り換えてください。

単4形マンガン乾電池をお使いください。

ホームメニューの 使いかた

本機とテレビをHDMIケーブルでつないで、本機のホームメニューをテレビ画面に表示することができます。






1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 上/下/左/右ボタンを押してカテゴリーを選び、決定ボタンまたは決定ボタンを押す。

カテゴリーの下に、選んだカテゴリーの項目が表示されます。

カテゴリー	説明
 [映像をみる]	テレビや本機につないだAV機器の入力を選びます。

カテゴリー	説明
 [音楽をきく]	本機につないだオーディオ機器やミュージックサービスの入力を選びます。
 [設定する]	[かんたん設定]で基本的な初期設定をしたり、本機のいろいろな詳細設定をすることができます。

3 上/下/左/右ボタンを押してカテゴリーの項目を選び、決定ボタンを押す。

選んだ入力または設定画面が表示が切り換わります。

前の画面に戻るには、戻るボタンを押します。

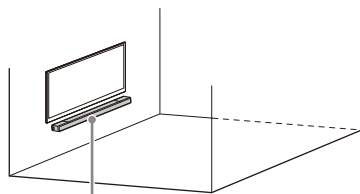
準備する

本機を設置する

バースピーカーを設置する

スタートガイド（別紙）をご覧ください。

バースピーカーを壁に取り付ける

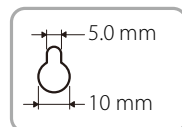
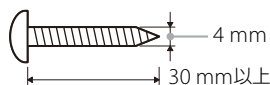


バースピーカー

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせた市販のネジをご用意ください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。
- ネジは柱部分にしっかりと固定してください。
- バースピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、ソニーは一切責任を負いません。
- 安全のために、取り付けは必ず2人以上で行ってください。

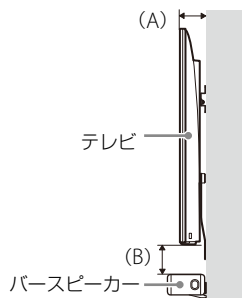
- 1 壁掛け用ブラケット（付属）の穴に合う市販のネジを2本用意する。



壁掛け用
ブラケットの穴

- 2 壁掛けテレビの奥行き（A）を測り、テレビ底面からバースピーカー天面までの間隔（B）を確認する。

バースピーカーから天井に向けて出力されるサラウンド音声テレビに妨げられないように、間隔を空ける必要があります。



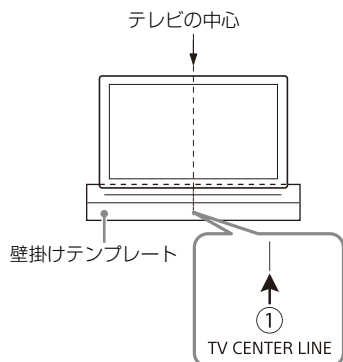
壁掛けテレビの奥行き（A）

テレビ底面からバースピーカー天面までの間隔（B）

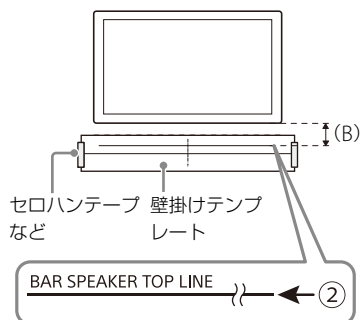
110 mm未満	120 mm以上
110 mm以上	200 mm以上

次のページへつづく

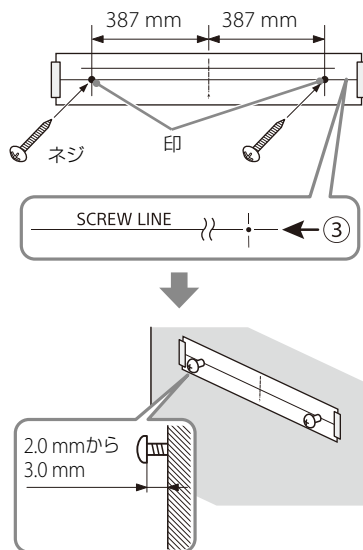
- 3** テレビの幅の中心に、壁掛けテンプレート（付属）に印字されている「↑①TVセンターライン」の縦線を含ませる。



- 4** テレビの底面から手順2で確認した必要な間隔（B）を空けた位置に、壁掛けテンプレートに印字されている「←②バススピーカー上端ライン」を合わせ、市販のセロハンテープなどで壁掛けテンプレートを貼る。

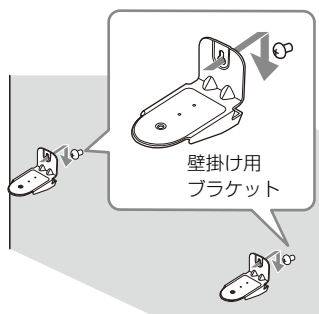


- 5** 壁掛けテンプレートに印字されている「←③ネジ取付けライン」の印の位置に、手順1で用意したネジを留める。

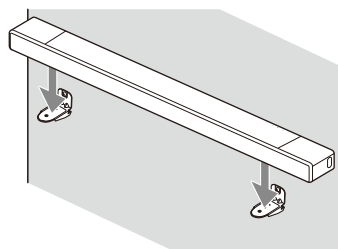


- 6** 壁掛けテンプレートを取りはずす。

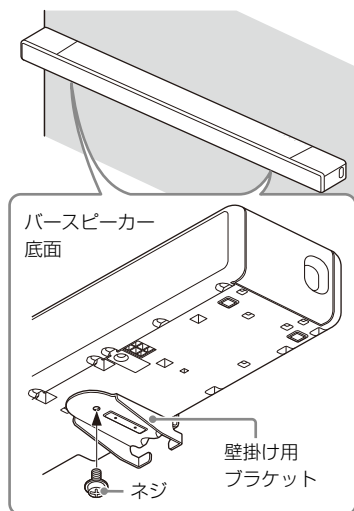
7 壁掛け用ブラケットを壁のネジにかける。



8 バースピーカーを壁掛け用ブラケットの上に乗せる。



9 バースピーカー底面のネジ穴と壁掛け用ブラケットのネジ穴の位置を合わせ、付属のネジでしっかりとめる。



ご注意

- 壁掛けテンプレートはしっかり伸ばして貼ってください。
- 壁にかける場合は必ず付属の壁掛け用ブラケットを使用してください。バースピーカーを直接壁にかけないでください。製品内部の温度が上昇することで、誤動作や故障の原因となります。

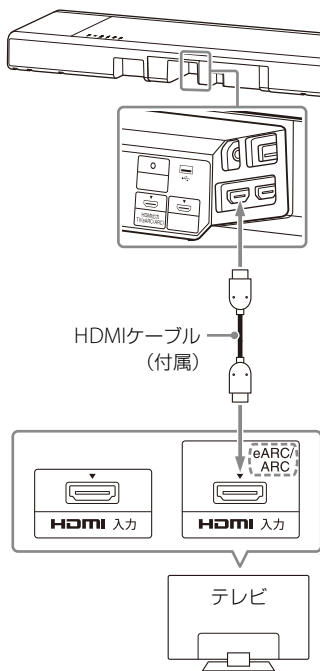
別売のスピーカーを設置する

別売のスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

テレビとつなぐ

ARC/eARC対応のテレビとつなぐ

- 1 テレビのARC/eARC対応 HDMI入力端子と本機のHDMI出力（TV（eARC/ARC））端子をHDMIケーブル（付属）でつなぐ。

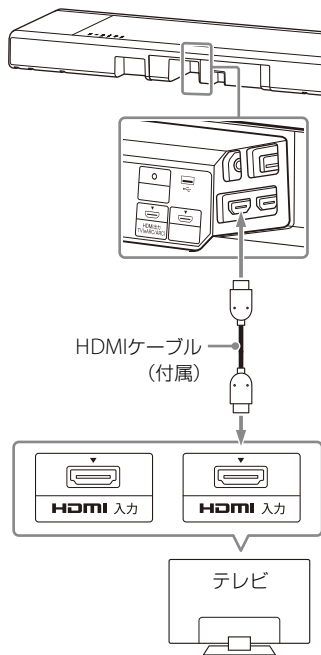


ご注意

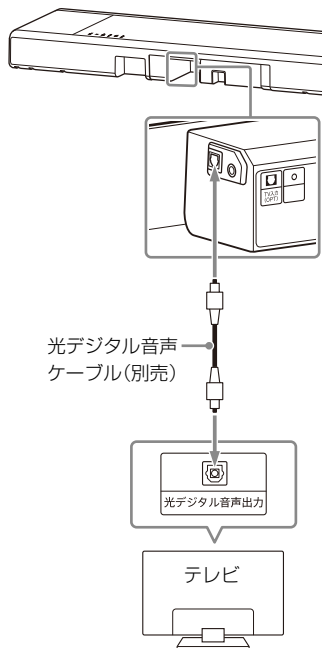
コネクターは奥までしっかり差し込んで下さい。

ARC/eARC非対応のテレビとつなぐ

- 1 テレビのHDMI入力端子と本機のHDMI出力（TV（eARC/ARC））端子をHDMIケーブル（付属）でつなぐ。



2 テレビの光デジタル音声出力端子と本機のTV入力(OPT)端子を光デジタル音声ケーブル(別売)でつなぐ。



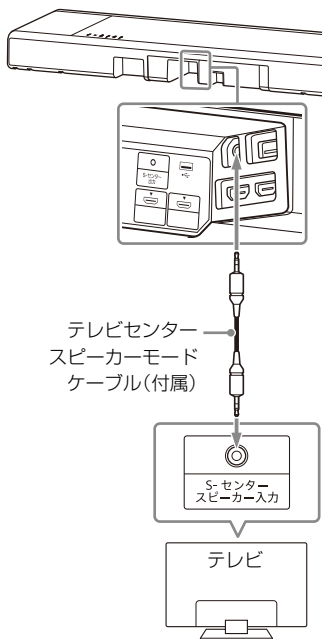
ご注意

- コネクターは奥までしっかり差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルのプラグと、テレビと本機の端子の形状を確認し、プラグを正しい向きで差し込んでください。間違った向きで無理に差し込むと、端子やプラグが破損することがあります。

テレビにS-センタースピーカー入力端子がある場合は

次の方法でテレビとつなぐと、本機のセンター成分の音声をテレビから出力できます。

- 1 本機とテレビをHDMIケーブル(付属)でつなぐ(16ページ)。
- 2 テレビのS-センタースピーカー入力端子と、本機のS-センター出力端子をテレビセンタースピーカーモードケーブル(付属)でつなぐ。



ご注意

コネクターは奥までしっかり差ししてください。

ちょっと一言

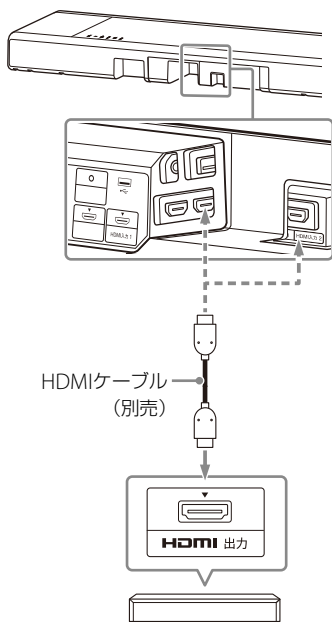
テレビセンタースピーカーモードケーブルの長さが足りないときは、市販の3極ステレオミニプラグオーディオケーブルをお使いください。

AV機器とつなぐ

2K/4K映像フォーマットに対応したAV機器とつなぐ

本機にAV機器をつなぐと、Dolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS:Xなどの音声を高音質に再生できます。

- 1 本機のHDMI入力1またはHDMI入力2端子とAV機器のHDMI出力端子をHDMIケーブル（別売）でつなぐ。



ブルーレイディスクレコーダー、ケーブルテレビ(CATV)ボックス、またはゲーム機など

ご注意

コネクターは奥までしっかり差ししてください。

ちょっと一言

- お使いのテレビがeARCに対応している場合、AV機器をテレビのHDMI入力端子につないでも高音質で再生できます。その場合、テレビのeARC機能を有効に設定してください。
- つなぐ機器の映像フォーマットに対応したHDMIケーブルと「HDMI信号フォーマット」を選んでください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

8K映像フォーマットに対応したAV機器とつなぐ

AV機器を次の方法でつなぐと、8Kの映像およびDolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS:Xなどの高音質な音声を再生できます。

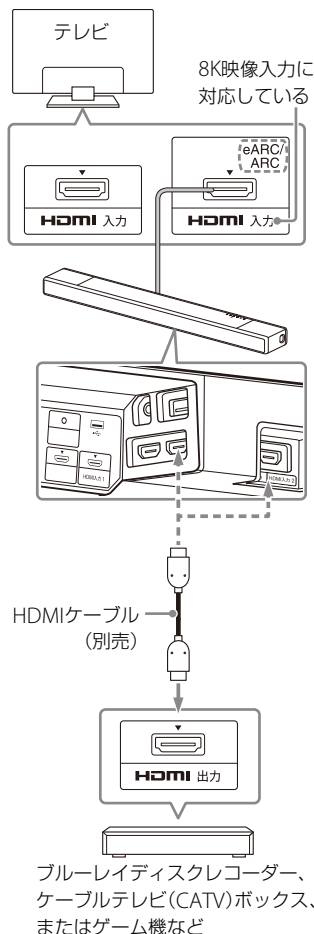
1 本機とテレビをHDMIケーブル（付属）でつなぐ（16ページ）。

2 テレビのeARC対応HDMI入力端子が8K映像に対応しているかを確認する。

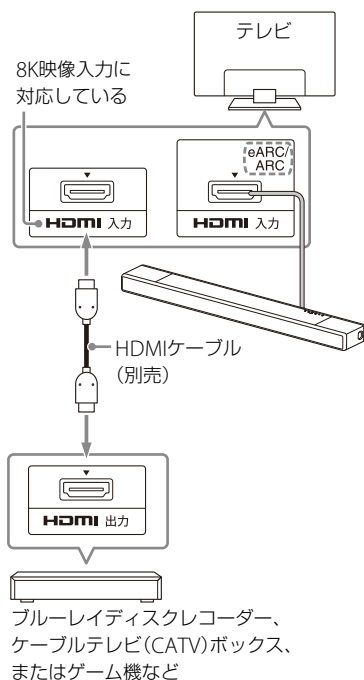
テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 次のいずれかの方法でAV機器をつなぐ。

テレビのeARC対応HDMI入力端子が8K映像に対応している場合：本機のHDMI入力1またはHDMI入力2端子とAV機器のHDMI出力端子をHDMIケーブル（別売）でつなぎます。



テレビのeARC対応HDMI入力端子が8K映像に対応していない場合：AV機器のHDMI出力端子とテレビの8K映像入力対応のHDMI入力端子をHDMIケーブル（別売）でつなぎます。テレビのeARC機能を有効に設定してください。



ご注意

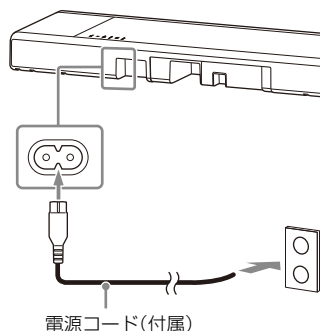
コネクタは奥までしっかり差してください。

ちょっと一言

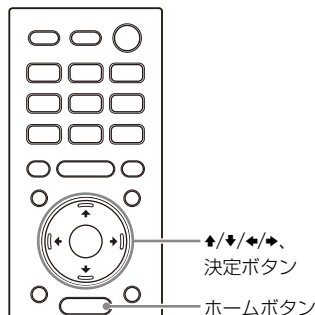
つなぐ機器の映像フォーマットに対応したHDMIケーブルと[HDMI信号フォーマット]を選んでください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

電源につなぐ

- 1 バースピーカーのAC入力端子に電源コード（付属）をつなぎ、コンセントに差し込む。



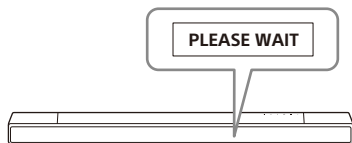
初期設定をする



1 本機のリモコンのホームボタンを押して本機の電源を入れる。

リモコンはベーススピーカー正面に向けて操作してください。

2 表示窓の [PLEASE WAIT] が消え、次の表示に変わるまで待つ。

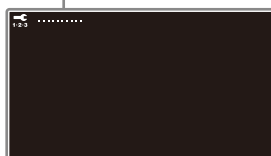


3 テレビの電源を入れる。

4 画面の指示に従って初期設定をする。

初期設定画面が表示されない場合は、テレビのリモコンでテレビの入力を本機をつないだHDMI入力に切り換え、本機のリモコンのホームボタンを押してください。

初期設定画面



- 決定ボタンを押して画面表示されている項目を選びます。
- 別売のサブウーファー／リアスピーカーをお使いの場合は、[ワイヤレススピーカー接続確認] 画面の指示に従って本機につながります。
- [設定が完了しました。] が表示されたら、[機能紹介に進む] を選びます。

ご注意

テレビと本機の電源を入れる順番によっては本機が消音状態になり、本機の表示窓に [MUTING] と表示される場合があります。その場合は、すべての機器の電源を切り、テレビの電源を入れたあとに本機の電源を入れてください。

テレビを見る

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで□[映像をみる] → [TV] を選ぶ。
- 3 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。
テレビ画面に選んだ番組が表示され、テレビの音声の本機から出力されます。
- 4 音量を調節する（35ページ）。

ご注意

バースピーカーによってテレビのリモコン受光部が隠れてしまい、テレビのリモコンによる操作ができないときは、本機のIRリピーター機能を有効にしてください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

ちょっと一言

リモコンのTVボタンを押して、テレビ入力を選ぶこともできます。

AV機器を再生する

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで□[映像をみる] → [HDMI1] または [HDMI2] を選ぶ。
 - [HDMI1]：HDMI入力1端子につないだ機器
 - [HDMI2]：HDMI入力2端子につないだ機器テレビ画面に選んだ機器の映像が表示され、音声が本機から出力されます。
- 3 音量を調節する（35ページ）。

ちょっと一言

リモコンのHDMI1ボタンまたはHDMI2ボタンを押して、HDMI入力1またはHDMI入力2を選ぶこともできます。

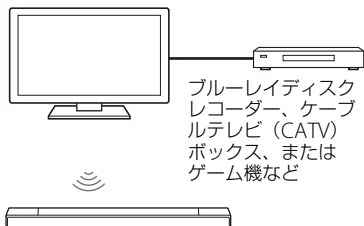
BLUETOOTH® 機能でソニー製テレビの音声を聞く

テレビとBLUETOOTH機能 でつなぐとできること

ソニー製のBLUETOOTH機能搭載テレビ*をお使いの場合、テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないで、テレビやテレビにつないだ機器の音声をワイヤレスで聞くことができます。

* A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。

ソニー製のテレビ



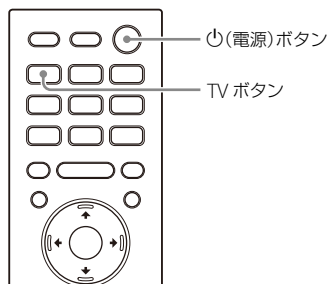
ご注意

テレビと本機をBLUETOOTH機能でつなぐと、ホームメニューなどの操作画面をテレビ画面に表示することができないため、テレビやテレビにつないだ機器の音声を聞く以外の機能はお使いになれません。本機のすべての機能をお使いになりたい場合は、本機とテレビをHDMIケーブル (付属) でつないでください (16ページ)。

本機とテレビをワイヤレスで つないで音声を聞く

BLUETOOTH機能を使ってテレビと本機を機器登録 (ペアリング) する必要があります。

ペアリングとは、BLUETOOTH機器同士を互いにあらかじめ登録することです。

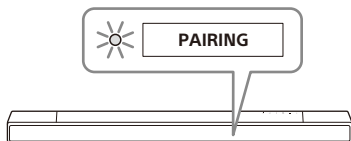


- 1 テレビの電源を入れる。
- 2 ⏻ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。
- 3 バースピーカーのBLUETOOTHボタンとリモコンのTVボタンを同時に5秒間長押しする。



4 バースピーカーの BLUETOOTHランプが青色 に速く点滅し、表示窓に [PAIRING] が表示されて いることを確認する。

本機がペアリングモードになります。



5 テレビで機器登録（ペア リング）操作をして、本機を 検索する。

検出したBLUETOOTH機器の一覧
がテレビ画面に表示されます。
テレビにBLUETOOTH機器を機器
登録（ペアリング）する操作方
法は、テレビの取扱説明書をご
覧ください。

6 テレビの画面に表示された 機器の一覧から「HT- A7000」を選び、互いの機 器を登録する。

7 バースピーカーの BLUETOOTHランプが青色 に点灯し、表示窓に [TV (BT)] が表示されているこ とを確認する。

本機とテレビとの接続が完了し
ました。

8 テレビのリモコンでお好 みの番組、またはテレビにつ かないだ機器の入力を選ぶ。

テレビに表示されている画面の音
声が本機から出力されます。

9 テレビのリモコンで本機の 音量を調節する。

テレビのリモコンの消音ボタンを
押すと、本機の音を一時的に消す
ことができます。

ご注意

- 本機からテレビの音声がでないときは、
TVボタンを押してバースピーカーの表示
窓とランプの状態を確認してください。
 - － 表示窓に [TV (BT)] が表示されている
とき：本機とテレビの接続が完了し、
テレビの音声が本機から出力されます。
 - － BLUETOOTHランプが速く点滅し、表
示窓に [PAIRING] が表示されている
とき：テレビ側でペアリングを行って
ください。
 - － 表示窓に [TV] が表示されていると
き：ペアリングの手順を最初からやり
直してください。
- 本機とテレビをHDMIケーブルでつなぐ
と、BLUETOOTH接続が解除されます。
本機とテレビをBLUETOOTH機能でつな
ぎなおすには、HDMIケーブルを抜いてか
らペアリングの手順を最初からやり直して
ください。

ペアリングしたテレビの音声を聞く

1 テレビのリモコンでテレビの電源を入れる。

テレビの電源に連動して本機の電源が入り、本機からテレビの音声が出力されます。

2 テレビのリモコンでお好みの番組、またはテレビにつないだ機器の入力を選ぶ。

テレビに表示されている画面の音声が本機から出力されます。

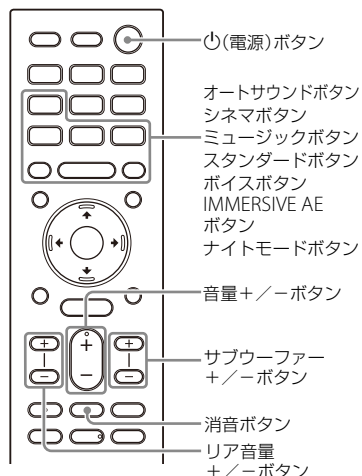
3 テレビのリモコンで本機の音量を調節する。

テレビのリモコンの消音ボタンを押すと、本機の音を一時的に消すことができます。

ちょっと一言

テレビの電源を切ると、連動して本機の電源も切れます。

本機のリモコンで操作できること
以下のボタンを使うことができます。



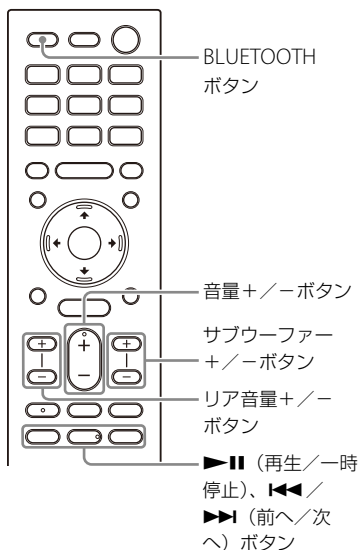
ご注意

- 本機のリモコンでテレビ以外の入力を選ぶと、テレビの音声が本機から出なくなります。テレビの音声を本機で聞くには、リモコンのTVボタンを押してテレビ入力を選んでください。
- テレビと本機をBLUETOOTH機能でつないでいるときは、以下のリモコンのボタンが効きません。
 ▲/▼/◆/◆ ボタン、決定ボタン、戻るボタン、ホームボタン、画面表示ボタン、オプションボタン、▶|| (再生/一時停止) ボタン、◀◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン

BLUETOOTH機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器を機器登録（ペアリング）して音楽を聞く

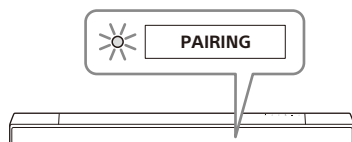
BLUETOOTH機能を使うには、あらかじめ本機でモバイル機器を機器登録（ペアリング）する必要があります。



1 BLUETOOTHボタンを2秒間長押しする。

2 バースピーカーのBLUETOOTHランプが青色に速く点滅し、表示窓に「PAIRING」が表示されていることを確認する。

本機がペアリングモードになります。



3 モバイル機器で機器登録（ペアリング）操作をして、本機を検索する。

検出されたBLUETOOTH機器の一覧がモバイル機器の画面に表示されます。

モバイル機器にBLUETOOTH機器を機器登録（ペアリング）する操作方法は、モバイル機器の取扱説明書をご覧ください。

4 モバイル機器の画面に表示された機器の一覧から「HT-A7000」を選び、互いの機器を登録する。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

5 バースピーカーの BLUETOOTHランプが青色 に点灯し、表示窓に [BT] が表示されていることを確 認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

6 モバイル機器の音楽再生ア プリでコンテンツを再生す る。

本機から音声が出力されます。

7 音量を調節する（35ペー ジ）。

リモコンの再生操作ボタンを使っ
てコンテンツの再生や一時停止が
できます。

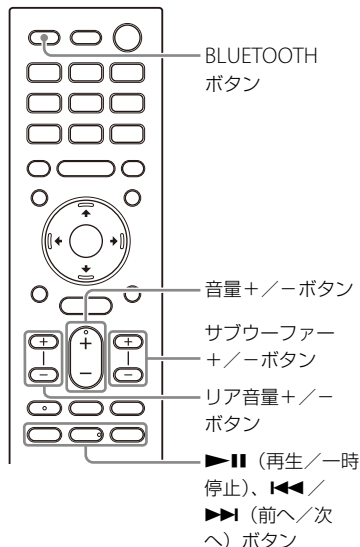
BLUETOOTH機能の接続状態を確認する

接続の状態	BLUETOOTH ランプの状態
ペアリング待ち 状態	青色に速く点滅
接続待ち状態	青色に点滅
接続完了	青色に点灯

ちょっと一言

- まだ1台もペアリングをしていない場合（本機ご購入直後など）は、BLUETOOTH入力に切り換えるだけでペアリングモードになります。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

機器登録（ペアリング）済みの モバイル機器の音楽を聞く



1 モバイル機器の BLUETOOTH機能をオンに する。

2 BLUETOOTHボタンを押す。 最後につないだBLUETOOTH機器 が自動的につながります。

3 バースピーカーの BLUETOOTHランプが青色 に点灯し、表示窓に [BT] が表示されていることを確 認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。


4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する（35ページ）。

リモコンの再生操作ボタンを使ってコンテンツの再生や一時停止ができます。

ご注意


音の遅延が気になる場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [Bluetooth接続品質] を [接続優先] に変更すると改善する場合があります。

ちょっと一言

接続が完了しなかった場合、モバイル機器側で、「HT-A7000」を選んでください。

モバイル機器の接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

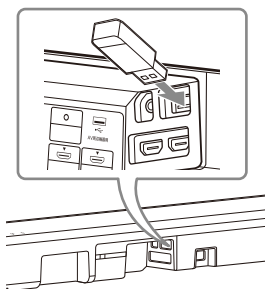
- モバイル機器のBLUETOOTH機能をオフにする。
- テレビ画面に [Bluetooth Audio] 画面が表示されているときに、BLUETOOTHボタンを押す。
-  [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] を [送信] または [切] に設定する。
- 本機またはモバイル機器の電源を切る。

USB機器の音楽を聞く

USB機器の音楽ファイルを再生できます。

再生可能なファイルについては「再生できる音声ファイルの種類」（62ページ）をご覧ください。

1 USB端子にUSB機器を差し込む。



2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [音楽をきく] → [USB（接続済み）] を選ぶ。

4 曲が保存されているフォルダーを選び、曲を選ぶ。

音楽が再生され本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する（35ページ）。

ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。

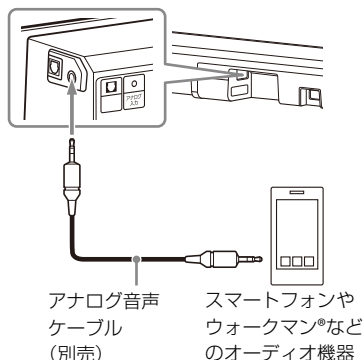
ちょっと一言

リモコンのUSBボタンを押して、USB入力を選ぶこともできます。

アナログ音声ケーブルでつないだ機器の音楽を聞く

本機のアナログ入力端子につないだウォークマン®などのオーディオ機器の音楽を聞くことができます。

1 オーディオ機器をアナログ入力端子につなぐ。



2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで **Ⓜ** [音楽をきく] → [Analog] を選ぶ。

テレビ画面に [Analog] 画面が表示されます。

4 オーディオ機器でコンテンツを再生する。

本機から音声出力されます。

5 音量を調節する（35ページ）。

ちょっと一言

リモコンのANALOGボタンを押して、アナログ入力を選ぶこともできます。

テレビやつないだ機器の音声をヘッドホンで聞く

ヘッドホンと機器登録（ペアリング）して聞く

1 BLUETOOTH対応ヘッドホンをペアリングモードにする。

機器登録（ペアリング）については、ヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

4 [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] → [送信] を選ぶ。

本機がBLUETOOTH送信モードになります。

5 [Bluetooth設定] → [機器リスト] からヘッドホンの機器名を選ぶ。

BLUETOOTH接続が完了すると、
[接続中] と表示されます。
[機器リスト] にヘッドホンの機器名が見つからない場合は、[検索]を選んでください。

6 ホームメニューに戻り、 □[映像をみる] または ■[音楽をきく] を選び、入 力を選ぶ。


テレビ画面が選んだ入力に切り換
わり、表示窓に [BT TX] と表示
され、ヘッドホンから音声が出力
されます。

本機から音は出なくなります。

7 音量を調節する。

最初にヘッドホンを適度な音量に
し、次にバースピーカーの+/-
ボタンやリモコンの音量+/-ボ
タンで、ヘッドホンの音量を調節
します。

ペアリング済みヘッドホンを機器リ ストから削除する


- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示
されます。
- 2 ホームメニューで  [設定する]
→ [詳細設定] を選ぶ。
- 3 [Bluetooth設定] → [機器リス
ト] を選ぶ。
- 4 削除したいヘッドホンの機器名に
カーソルを合わせ、画面表示ボタ

ンを押す。


すべてのペアリング済みヘッドホ
ンを削除する場合は、音声切換ボ
タンを押す。

- 5 テレビ画面の指示に従ってヘッド
ホンを機器リストから削除する。

ご注意

ペアリング済みのヘッドホンを機器リス
トに表示させるには、 [設定する] → [詳細
設定] → [Bluetooth設定] → [Bluetooth
モード] を [送信] に設定してください。

機器登録（ペアリング）済み のヘッドホンで聞く

- 1 ヘッドホンのBLUETOOTH
機能をオンにする。
- 2 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示
されます。
- 3 ホームメニューで  [設定
する] → [詳細設定] を選
ぶ。
- 4 [Bluetooth設定] →
[Bluetoothモード] →
[送信] を選ぶ。
本機がBLUETOOTH送信モードに
なり、最後につないだヘッドホン
に自動的につながります。

5 ホームメニューに戻り、 □[映像をみる] または ■[音楽をきく] を選び、入 力を選ぶ。

テレビ画面が選んだ入力に切り換わり、表示窓に [BT TX] と表示され、ヘッドホンから音声が出力されます。

本機から音は出なくなります。


6 音量を調節する。

最初にヘッドホンを適度な音量にし、次にバースピーカーの+/-ボタンやリモコンの音量+/-ボタンで、ヘッドホンの音量を調節します。


ペアリング済みヘッドホンの接続を解除する

次のいずれかを行ってください。

ーヘッドホンのBLUETOOTH機能をオフにする。


ー  [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] を [受信] または [切] に設定する。

ー本機またはヘッドホンの電源を切る。

ー  [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [機器リスト] で接続中のヘッドホンの機器名を選ぶ。

機器名の [接続中] の文字が表示されなくなります。

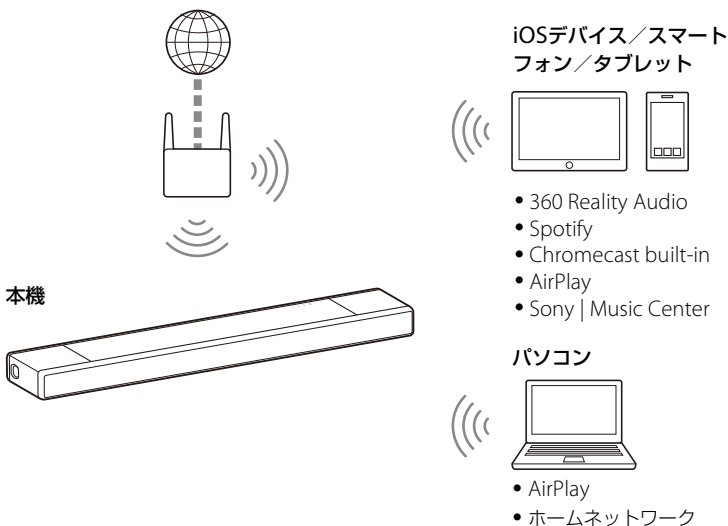
ヘッドホンの接続について

- BLUETOOTH対応ヘッドホンによっては音量を調節できない場合があります。
-  [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [Bluetoothモード] が [切] または [送信] になっているときはBLUETOOTH入力が無効になります。
- BLUETOOTH機器は9台まで登録できます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台の中で接続履歴の最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- BLUETOOTH機器は [機器リスト] (31ページ) に15台まで表示できます。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンに音声を送信している間は、サウンド効果の設定の変更はできません。
- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力されないことがあります。
- BLUETOOTH対応ヘッドホンがSCMS-T非対応の場合は、音声を出力できない場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、本機側の再生に比べて受信側での音楽／音声の再生が遅れます。
- 送信される音声に、LDACコーデックを使用するかどうかを [Bluetooth設定] で変更することができます。

ネットワークにつないでできること

本機をネットワークに接続すると、スマートフォンやタブレット、iOSデバイスを操作して本機から音楽をストリーミング再生したり、パソコンに保存している音楽を本機で再生したりできます。

機能や操作方法について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。



360 Reality Audio

360 Reality Audioに対応したストリーミングサービスのアプリから音楽を選び、本機で再生することができます。

Spotify

Spotifyアプリから音楽を選び、本機で再生することができます。スマホ、タブレット、パソコンをリモコンにして、Spotifyで音楽を楽しめます。詳しくはspotify.com/connectをご覧ください。

Chromecast built-in™

Chromecast対応アプリから音楽コンテンツを選び、本機で再生することができます。

AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。iOSデバイスやパソコンを操作して本機で音楽を再生することができます。

Sony | Music Center

スマートフォンやタブレットにインストールしたSony | Music Centerを使って、本機をワイヤレスで操作できます。

ホームネットワーク

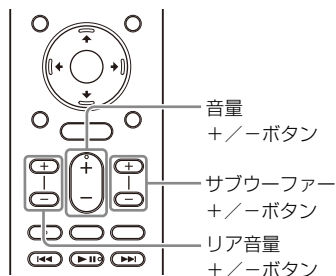
ホームネットワークを利用して、ネットワーク上のパソコンに保存した音楽を再生することができます。

ご注意

本製品につなぐルーター等は電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているものをつないでください。

音量や音質を調整する

音量を調節する



本機の音量を調節する

音量+/-ボタンを押します。
音量レベルは表示窓に表示されます。

サブウーファースの音量を調節する

サブウーファー+/-ボタンを押します。
音量レベルは表示窓に表示されます。

ご注意

サブウーファーは低音を再生するためのスピーカーです。テレビ放送などの低音の少ない入力では、サブウーファースの音が聞こえにくいことがあります。

ちょっと一言

別売のサブウーファーをつないでいるときは、内蔵サブウーファースの代わりに別売のサブウーファースの音量を調節します。

別売のリアスピーカースの音量を調節する

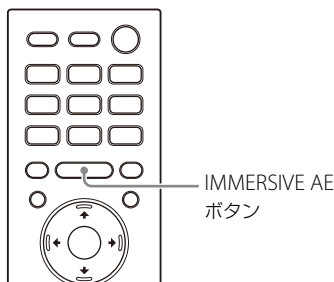
リア音量+/-ボタンを押します。
音量レベルは表示窓に表示されます。

ご注意

- 別売のリアスピーカースは、マルチチャンネルサウンドのサラウンド部分を再生、または2チャンネルサウンドからバーチャル処理でサラウンドを再生するためのスピーカーです。サラウンド成分の少ない入力では、リアスピーカースからサラウンド成分の音が聞こえにくいことがあります。
- 別売のリアスピーカースをつないでいないときは、リア音量+/-ボタンは効きません。

上から包まれる臨場感を体験する (IMMERSIVE AE)

サウンドモード（37ページ）が効果的に働き、横からだけでなく上からも包み込まれるような体験ができます。テレビ放送などに多い2.0チャンネル信号に対しても動作します。



1 IMMERSIVE AEボタンを押して、オンまたはオフに設定する。

テレビ画面にImmersive Audio Enhancement設定が表示されます。

設定	説明
[Immersive Audio Enhancement : 入]	Immersive Audio Enhancement機能 能を有効にします。


設定	説明
[Immersive Audio Enhancement : 切]	Immersive Audio Enhancement機能 能を無効にします。

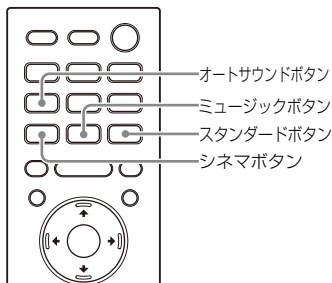
ご注意

- Immersive Audio Enhancement機能は、 [設定する] → [詳細設定] → [音声設定] → [サウンドエフェクト] を [サウンドモード 入] に設定しているとき、または [設定する] → [詳細設定] → [音声設定] → [360 Spatial Sound Mapping] を [入] に設定しているときのみ有効です。
- 次の場合はIMMERSIVE AEボタンを押しても設定の切り換えができません。
 - BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるとき（30ページ）
 - テストトーン出力中
- 音源により、全方位からのサラウンド効果は異なります。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にImmersive Audio Enhancement設定が表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。
- Dolby Atmosなど音源によっては、本設定が固定され変更できないことがあります。

音源に合わせたサウンド効果に設定する（サウンドモード）

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選べます。

この機能は、 [設定する] → [詳細設定] → [音声設定] → [サウンドエフェクト] が [サウンドモード 入] のときに使えます。



1 オートサウンド、シネマ、ミュージック、スタンダードのいずれかのボタンを押して、サウンドモードを選ぶ。

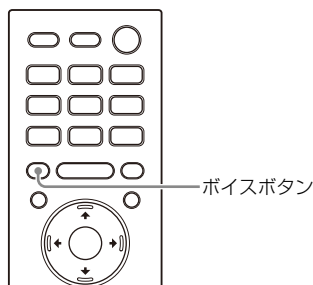
テレビ画面に選んだサウンドモードが表示されます。

サウンドモード	説明
[オートサウンド]	スタンダード、シネマ、ミュージックの中から再生するコンテンツに合ったおすすめサウンドモードに自動的に切り換わります。
[シネマ]	後方へ回り込む音や音場に包まれる没入感を体験することができます。映画を楽しむときに適しています。
[ミュージック]	楽器や声の生々しさやつやなどがきめ細かく表現され、音楽をより感動的に楽しむときに適しています。
[スタンダードサラウンド]	ジャンルを問わず、サラウンド感を体感する際に適しています。

ご注意

- 以下の場合はサウンドモード機能は使えません。
 - Chromecast built-in使用中
 - AirPlay使用中
 - BLUETOOTH送信モードでBLUETOOTH機器とつないでいるとき（30ページ）
 - テストトーン出力中
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にサウンドモードが表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。
- サウンドモードと音源の組み合わせによっては、[音場最適化] の効果が適用されないことがあります。

セリフを聞きやすくする（ボイス）



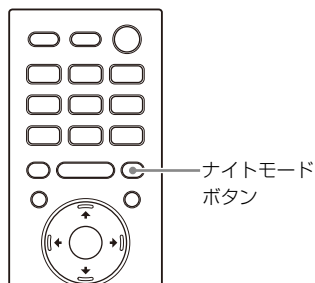
- 1 ボイスボタンを押して、オンまたはオフに設定する。
テレビ画面にボイスモード設定が表示されます。

モード	説明
【ボイス: 入】	セリフを強調し、聞こえやすくします。
【ボイス: 切】	ボイスモード機能を無効にします。

ご注意

- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にボイスモード設定が表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。
- BLUETOOTH送信モード（30ページ）でBLUETOOTH機器とつないでいるときは、ボイスモードは無効になります。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイトモード）



- 1 ナイトモードボタンを押して、オンまたはオフに設定する。
テレビ画面にナイトモード設定が表示されます。

モード	説明
【ナイトモード: 入】	小さい音でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。
【ナイトモード: 切】	ナイトモード機能を無効にします。

ご注意

- 本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的に【ナイトモード: 切】に設定されます。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面にナイトモード設定が表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。

- BLUETOOTH送信モード（30ページ）で BLUETOOTH機器とつないでいるときは、ナイトモードは無効になります。

音声と映像のずれを調整する

つないだテレビや機器によっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、音声を遅らせることでずれを調節することができます。

入力によって調節のしかたが異なります。

詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

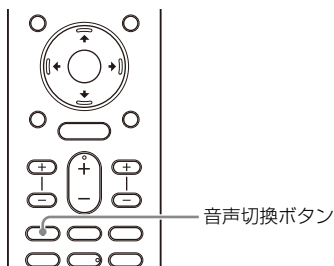
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているAAC音声方式で放送されています。

お使いのテレビのHDMI端子がeARCまたはARC機能に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます（16ページ）。

お使いのテレビのHDMI端子がeARCまたはARC機能に対応していない場合は、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（別売）でつなぎます（16ページ）。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。



1 音声切換ボタンを繰り返し押し、音声信号を選ぶ。

テレビ画面に音声信号が表示されます。

音声信号	説明
【音声切換: 主】	主音声を再生します。
【音声切換: 副】	副音声を再生します。
【音声切換: 主／副】	主音声は左のスピーカーから、副音声は右のスピーカーから再生されます。

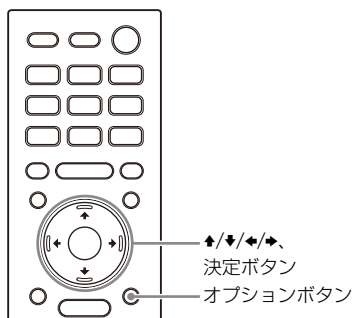
ご注意

テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面に音声信号が表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。

DTS:X再生中にセリフの音量を調節する

セリフの音量を調節することにより、セリフの音量を背景の音から際立たせ、騒がしい環境でも映画などのセリフを聞き取りやすくします。この機能はDTS:Xダイアログコントロールに対応したコンテンツを再生しているときに働きます。

入力によって調節のしかたが異なります。



テレビで再生中に調節する

- 1 オプションボタンを押し、
↑/↓ボタンで本体表示窓に
[DIALOG] を表示させて、
決定ボタンを押す。

- 2 ↑/↓ボタンでセリフの音量
レベルを調節し、決定ボタ
ンを押す。

0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざ
みで調節できます。

- 3 オプションボタンを押す。
元の表示に戻ります。

AV機器で再生中に調節する

- 1 オプションボタンを押す。
テレビ画面にオプションメニュー
が表示されます。

- 2 [DTSダイアログコント
ロール] を選ぶ。

- 3 ↑/↓ボタンでセリフの音量
レベルを調節し、決定ボタ
ンを押す。

0.0 dB～6.0 dBの間で1.0 dBきざ
みで調節できます。

テレビと連携して使う

テレビと本機を連携して操作する (HDMI機器制御機能)

HDMI機器制御機能対応のテレビと本機をHDMIケーブルでつなぐと、本機とテレビの電源の入/切や音量の調節を連携させることができます。

HDMI機器制御機能とは

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) ケーブルでつないだ機器同士が連携して動作する機能のことです。HDMI機器制御機能に対応した機器間で動きますが、他社製の機器とつないだ場合に動作しない場合があります。

テレビと連携して使う準備をする

本機とHDMIケーブルでつないだテレビと機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。

本機のHDMI機器制御機能のお買い上げ時の設定は「入」です。

ちょっと一言

- ブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブルでテレビにつないでいる場合は、その機器のHDMI機器制御機能も有効にしてください。

- テレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器のHDMI機器制御機能を有効にするには、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製のテレビをご使用の場合は、テレビのHDMI機器制御（「ブラビアリンク」）機能を有効にすると、本機のHDMI機器制御機能も自動的に有効になります。設定が完了すると、表示窓に「DONE」が表示されます。

テレビのリモコンで本機の電源や音量を操作する

テレビのリモコンで電源や音量を操作すると、テレビに連携して本機が動作します。



電源の連動

テレビの電源を入れると、本機の電源も自動的に入ります。

テレビの電源を切ると、本機の電源も自動的に切れます。

ご注意

テレビの電源を切るよりも前に本機の電源を切ると、次にテレビの電源を入れても本機の電源が入らないことがあります。

この場合、以下の操作をすると本機の電源が入ります。

- ー テレビのメニューで、本機をスピーカー出力先に選ぶ。
- ー ソニー製のテレビをお使いの場合は、テレビの電源が入っている状態で本機の電源を入れる。

音量の調節

テレビで視聴している映像の音声自動的に本機のスピーカーから出力されます。また、テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。

その他の連携する機能

テレビのリモコンで本機のメニュー操作

テレビのリモコンで入力切替やリンクメニューを操作して本機の機器名を選ぶと、本機のメニューを操作できます。

ご注意

リンクメニューは、一部のソニー製テレビで対応しています。お使いのテレビがリンクメニューに対応しているかは、テレビの取扱説明書をご覧ください。


言語設定

テレビ画面上の言語設定を変更すると、本機の画面の表示言語も切り換わります。

ワンタッチプレイ

本機につないだブルーレイディスクレコーダーやPlayStation®4などでコンテンツを再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入ります。

ちょっと一言

ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] を選ぶと、HDMI機器制御機能の設定を変更できます。

“ブラビアリンク” 対応テレビと本機 を連携して操作す る

“ブラビアリンク”はHDMI機器制御機能をソニーが独自に拡張した機能です。“ブラビアリンク”対応のテレビやブルーレイディスクレコーダーなどの機器をHDMIケーブルでつなぐと、これらの機器を連携して操作ができます。

“ブラビアリンク”を使うには

ソニー製の機器のHDMI機器制御機能を有効にすると、“ブラビアリンク”が有効になります。

HDMI機器制御機能を有効にする手順について詳しくは、「テレビと連携して使う準備をする」(42ページ)をご覧ください。

“ブラビアリンク”でできること

HDMI機器制御機能

- 電源の連動 (42ページ)
- 音量の調節 (43ページ)
- テレビのリモコンで本機のメニュー操作 (43ページ)
- 言語設定 (43ページ)
- ワンタッチプレイ (43ページ)

音質モード／シーンセレクト連動

テレビの音質モード／シーンセレクトの設定に応じて、本機のサウンドモードを自動的に切り換えます。

この機能を使うには、本機のサウンドモードを「オートサウンド」にしておく必要があります (37ページ)。

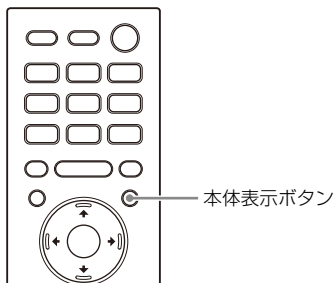
オーディオ機器コントロール

テレビの入力を切り換えることなく、本機の設定、サウンドモードの設定、入力切替などができます。

設定を変更する

表示窓とランプの
明るさを調整する
(本体表示)

表示窓とBLUETOOTHランプの明るさを調節できます。別売のサブウーファアやリアスピーカーの電源ランプの明るさも調節できます。



1 本体表示ボタンを繰り返し 押して、本体表示モードを 選ぶ。

テレビ画面に本体表示モードが表示されます。

モード	説明
[本体表示 の明るさ: 明]	表示窓とランプは明るく点灯します。
[本体表示 の明るさ: 暗]	表示窓とランプは暗く点灯します。

モード	説明
-----	----



[本体表示 の明るさ: 消灯]	表示窓とランプは消灯します。
-----------------------	----------------

ご注意

- [本体表示の明るさ: 消灯] を選ぶと表示窓とランプが消灯します。いずれかのボタンを押すと点灯し、約10秒間操作をしないとまた消灯になります。表示窓とランプが消えない場合もありますが、その場合の明るさは [本体表示の明るさ: 暗] と同じです。
- テレビ入力を選んでいるときは、テレビ画面に本体表示モードが表示されません。その場合は表示窓で設定を確認できます。

スタンバイ時の待機電力を抑える

スタンバイ時の消費電力を抑えるには、以下の設定をします。

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [切] にする。
-  [設定する] → [詳細設定] → [本体設定] → [ネットワーク／Bluetoothスタンバイ] を [切] にする。

かんたん設定を行う

[かんたん設定] で、本機の基本的な設定やスピーカー設定、ネットワーク設定を簡単に行うことができます。

1 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで [設定する] → [かんたん設定] を選ぶ。

テレビ画面に [かんたん設定選択] 画面が表示されます。

3 設定したい項目を選ぶ。

- [かんたん初期設定]：本機の基本的な設定（スピーカー設定、ネットワーク設定を含む）を行います。
- [かんたんサウンド設定]：お使いの環境に合わせてサラウンドを最適化するために基本的なスピーカーの設定をします。
- [かんたんネットワーク設定]：基本的なネットワーク設定を行います。

4 テレビ画面の指示に従って設定を行う。

詳細設定をする

【詳細設定】メニューの使いかた

【詳細設定】メニューでは、画像や音声などのさまざまな設定を行うことができます。

1 ホームボタンを押す。


テレビ画面にホームメニューが表示されます。

2 ホームメニューで 【設定する】 → 【詳細設定】 を選ぶ。

テレビ画面に【詳細設定】画面が表示されます。

3 お好みの設定を選ぶ。

設定項目について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。


設定項目	できること
 【スピーカー設定】	スピーカーの設置や接続に関する設定をします。
 【音声設定】	音声の出力に関する設定をします。
 【HDMI設定】	HDMIに関する設定をします。
 【Bluetooth設定】	BLUETOOTH機能の詳細設定をします。
 【本体設定】	本機に関する設定をします。
 【通信設定】	インターネットの詳細設定をします。
 【設定初期化】	本機の設定を初期化します。
 【ソフトウェアアップデート】	本機や別売のサブウーファー／リアスピーカーのソフトウェアを最新のバージョンにアップデートします。

ソフトウェアを アップデートする

最新バージョンのソフトウェアをダウンロードすることにより、最新の機能を楽しめます。

アップデート情報については下記のホームページをご覧ください。
<https://www.sony.jp/support>

ご注意


- アップデートが終了するまでに約20分かかることがあります。
- ネットワーク経由でのアップデートには、インターネット環境が必要です。
- ソフトウェアアップデート中は、本機の電源を切ったり、電源コードを抜いたり、HDMIケーブルを抜き差ししたり、本機やテレビの操作をしたりしないでください。ソフトウェアアップデート終了までお待ちください。
- 自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [通信設定] → [自動アップデート設定] → [自動アップデート] を [入] に設定してください。ソフトウェアアップデートの内容によっては、[自動アップデート] が [切] に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

1 別売のサブウーファーやリアスピーカーをお使いの場合は、電源が入っていて本機とつながれていることを確認する。

別売のサブウーファーやリアスピーカーの電源ランプが緑色に点灯します。

2 ホームボタンを押す。

テレビ画面にホームメニューが表示されます。

3 ホームメニューで  [設定する] → [詳細設定] を選ぶ。

ネットワーク上でアップデート情報が見つかった場合、アップデート通知および [ソフトウェアアップデート] がホームメニューに表示されます。この場合は [ソフトウェアアップデート] を選び、画面の指示に従ってください。

4 [ソフトウェアアップデート] を選ぶ。

テレビ画面に [ソフトウェアアップデート] 画面が表示されます。

5 アップデートする項目を選ぶ。

♦/◆ボタンを押してアップデートする項目を選んで決定ボタンを押し、画面の指示に従ってソフトウェアをアップデートします。アップデートが始まると本機は自動的に再起動します。

ソフトウェアアップデート中は、表示窓に [UPDATE] と表示されます。

アップデートが終了すると、本機は自動的に再起動します。

【ネットワークアップデート】

ネットワークを使用してソフトウェアをアップデートします。ネットワークがインターネットにつながっていることを確認してください。


【USBアップデート】

USBメモリーを使用してソフトウェアをアップデートします。詳しくは、アップデートファイルのダウンロード時に表示される手順をご覧ください。

【ワイヤレススピーカーをアップデート】

本機のソフトウェアが最新のと看、別売のサブウーファーやリアスピーカーのソフトウェアをアップデートします。

ご注意

- バースピーカーのBLUETOOTHボタンと  (電源) ボタンを同時に7秒間押して [USBアップデート] を行うこともできます。
- 別売のサブウーファーやリアスピーカーのアップデートがうまくいかない場合は、バースピーカーの近くに移動させてアップデートを行ってください。

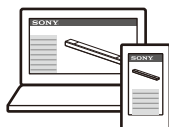
困ったときは

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいときは、次の順序で対処してください。

1 本書やヘルプガイドで、該当するトラブルと解決方法を調べる。

「故障かな？と思ったら」に、正常に動作しないときの対処方法を記載しています。本書に記載していない機能については、ヘルプガイドに記載しています。



<https://rd1.sony.net/help/ht/a7000/ja/>



2 サポートサイトで、該当するトラブルと解決方法を調べる。

サポートサイトには、最新のサポート情報やよくある質問とその回答を記載しています。

<https://www.sony.jp/support>

3 本機を初期化する。

本機のすべての設定がお買い上げ時の状態に戻ります。



4 それでも正常に動作しない場合は、お買い上げ店またはソニー相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

電源


電源が入らない

- 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源コードを差し直してください。


テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

- [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（42ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビによっては、前回テレビのスピーカーから音声が出力されていた場合は、テレビの電源を入れても本機の電源が入らない場合があります。



テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [電源オフ連動] を確認してください。[する] または [自動] に設定している場合は、テレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。

テレビの電源を切っても、本機の電源が切れない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [電源オフ連動] を確認してください。本機の入力にかかわらず、テレビの電源を切ったときに本機の電源も連動させたい場合は、[する] に設定してください。テレビがHDMI機器制御機能に対応している必要があります（42ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。


本機の電源が切れない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。パースピーカーの （電源）ボタンと （音量）ボタンを5秒以上押してください（59ページ）。

映像

映像が出ない、正しく出力されない

- 適切な入力を選んでください（22ページ）。
- テレビ入力を選んでいてもテレビの映像が出ない場合は、テレビのリモコンで見たチャンネルを選んでください。

- 本機のHDMI入力端子につないだ機器の映像が出ない場合は、つないだ機器の再生ボタンを押してください。
- HDMIケーブルを抜いて、差し直してください。HDMIケーブルは、奥までしっかり差し込んでください。
- 本機につないだ機器の映像が出ない、または正しく表示されない場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] の設定を変更してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。
- HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）に対応している機器に本機をつないでいるか確認してください。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビの映像が乱れる

- テレビもしくは他の無線機器と本機の無線機能の干渉が起きています。本機を対象の機器と離して設置してください。
- 無線LANと別売スピーカーの無線接続の周波数帯の干渉が起きています。テレビもしくは映像を再生している機器の無線LAN周波数を2.4 GHz帯に切り換えてください。
- テレビの電波と本機の無線機能との干渉が起きています。本機の無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。


HDMI入力1/2端子からの3Dコンテンツがテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、3Dコンテンツが表示されない場合があります。対応しているHDMIの映像

次のページへつづく

フォーマットを確認してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。



HDMI入力1/2端子からの高精細な映像信号（4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど）がテレビ画面に表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては、4Kなどの高精細な映像信号が表示されない場合があります。テレビとビデオ機器の映像設定と機能を確認してください。
- テレビまたはつないだ機器が対応している映像信号に応じて、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] の設定を変更してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。
- 著作権保護された4Kなどの高精細な映像信号を見る場合は、本機をテレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI入力端子とつなぎます。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。テレビのHDCP2.2またはHDCP2.3対応HDMI入力端子がeARCまたはARCに対応していない場合は、テレビの光デジタル音声出力端子と本機のTV入力（OPT）端子を光デジタル音声ケーブルでつないでください。


映像がテレビ画面全体に表示されない

- ディスクに記録されている映像のアスペクト比が固定されていないか確認してください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに本機につないだ機器の映像と音声が出ない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定して、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器でHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [入] に設定してください。

HDRコンテンツがハイダイナミックレンジで表示されない




- テレビまたはつないだ機器の設定を確認してください。詳しくは、テレビまたはつないだ機器の取扱説明書をご覧ください。
- [HDMI信号フォーマット] の設定によっては、AV機器がHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。AV機器が対応している映像フォーマットに応じて、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] の設定を変更してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

音声

本機とテレビがBLUETOOTH機能 でつながらない

- テレビと本機をHDMIケーブルでつないでいる場合は、BLUETOOTH接続が解除されます。



本機からテレビの音声が出ない

- テレビと本機をつないでいるHDMIケーブル、テレビセンタースピーカーモードケーブル、または光デジタル音声ケーブルの種類や接続を確認してください（16ページ）。
- テレビと本機をつないでいるケーブル類を抜き、しっかり奥まで差し込み直してください。続けてテレビと本機の電源コードを抜き、差し込み直してください。
- テレビと本機をHDMIケーブルでつないでいる場合は、以下を確認してください。
 - 一本機がテレビのeARCまたはARC対応HDMI入力端子につながれている。
 - 一テレビのHDMI機器制御機能が有効になっている。
 - 一テレビのeARC機能またはARC機能が有効になっている。
 - 一本機の  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] が [入]、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [TV音声入力モード] が [自動] になっている。
- テレビがeARCに対応していない場合は、 [設定する] → [詳細設定] →


[HDMI設定] → [eARC] を [切] に設定してください。

- お使いのテレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、光デジタル音声ケーブルをつないでください（16ページ）。テレビがeARCまたはARCに対応していない場合は、本機をテレビのHDMI入力端子につないでもテレビの音声は本機から出力されません。
- 本機の入力をテレビ入力に切り換えてください。
- 本機の音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビにつないだブルーレイディスクレコーダー、ケーブルテレビ（CATV）ボックス、またはゲーム機などの音声がでない場合は、それぞれの機器を本機のHDMI入力1またはHDMI入力2端子につないで、本機の入力をつないだ機器の入力（[HDMI1] または [HDMI2]）に切り換えてください（18ページ）。
- テレビと本機の電源を入れる順番によっては、本機が消音状態になり、本機の表示窓に [MUTING] と表示される場合があります。その場合は、テレビの電源を入れてから、本機の電源を入れてください。
- 付属のリモコンのTV/オーディオシステムボタンでテレビ音声の出力を切り換えるか、テレビ（ブラビア）のスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機の電源が入っていないとき、テレビに本機につないだ機器の映像と音声が出ない

-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI機器制御] を [入] に設定して、[スタンバイスルー] を [自動] または [入] に設定してください。
- 本機の電源を入れて、入力を再生している機器に切り換えてください。
- 他社製の機器でHDMI機器制御機能に対応している機器をつないでいる場合は、 [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [スタンバイスルー] を [入] に設定してください。

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音してください。
- テレビと本機をテレビセンタースピーカーモードケーブルでつないで  [設定する] → [詳細設定] → [スピーカー設定] → [テレビセンタースピーカー設定] → [テレビセンタースピーカーモード] を [入] にすると、本機のセンター成分の音声がテレビから出力されます。[テレビセンタースピーカーモード] について詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

テレビ番組や録画した番組を視聴中に音が途切れる


- サウンドモードの設定を確認してください (37ページ)。**[オートサウンド]** に設定されている場合、視聴中の番組情報に応じてサウンドモードが自動的に切り換わる際に、音が途切れることがあります。自動的に切り換えない場

合は、**[オートサウンド]** 以外のサウンドモードに設定してください。

本機から出るテレビの音声が映像より遅れる

- 音声と映像のずれ調整機能の設定値が 25 msec～300 msecに設定されていたら、0 msecに設定してください。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。
- 音源によっては、音声と映像がずれることがあります。お使いのテレビに映像を遅延させる機能がある場合は、そちらをご使用ください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機につないだ機器の音声がでない、または音が小さい


- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください (10ページ)。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください (10ページ)。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。また、リモコンの入力選択ボタン (TV/HDMI1/HDMI2/ANALOG/USB/BLUETOOTH) を押して入力を切り換えてください。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認してください。
- 著作権保護されたコンテンツを再生した場合は、本機から音が出ないことがあります。
-  [設定する] → [詳細設定] → [HDMI設定] → [HDMI信号フォーマット] → [HDMI入力1] / [HDMI入力2] の設定を変更してください。

詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

サラウンド効果が得られない

- サウンドモードの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

別売のリアスピーカー／サブウーファースから音が出ない

-  [設定する] → [詳細設定] → [スピーカー設定] → [ワイヤレススピーカー設定] → [ワイヤレス再生品質]を[接続優先]に設定すると、改善される場合があります。
- 別売のリアスピーカー／サブウーファースの取扱説明書をご覧ください。

音が出ないスピーカーがある

- コンテンツやサウンドモードによっては音が出ないスピーカーがあります。

音場最適化

音場最適化が失敗する


- 別売のリアスピーカーをお使いの場合は、底面のラベルが下になるように立てて置いてください。
- 周囲が静かな状態で再度音場最適化を行ってください。
- バースピーカー、別売のリアスピーカー／サブウーファースの距離が近すぎ

たり、離れすぎたりすると音場最適化を正しく行うことができません。スピーカーの距離を調整して、再度行ってください。

- スピーカー同士の間には障害物があったり、測定用マイクが隠れていたりすると、音場最適化を正しく行うことができません。スピーカー同士の間や、スピーカーの目の前に障害物がある場合は、取り除いてください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が  (USB) 端子にしっかりつながれているか確認してください (28ページ)。
- USB機器が破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。
- USB機器がUSBハブやUSBケーブルを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をUSBハブやUSBケーブルからはずして、本機に直接つないでください。
- ウォークマン®やスマートフォンをつないだ場合、機器の内部ストレージと外部ストレージ（メモリーカードなど）は検出されないことがあります。

モバイル機器の BLUETOOTH接続

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

BLUETOOTH接続ができない

- パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (27ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要があります。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください (26ページ)。

つないだBLUETOOTH機器の音が 本機から出ない

- パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (27ページ)。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電

磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

ヘッドホンのBLUETOOTH 接続

ペアリングできない


- 本機とBLUETOOTH対応ヘッドホンになるべく近づけてからペアリングを行ってください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。

BLUETOOTH接続ができない

- パースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください (27ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH対応ヘッドホンの電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。
- 本機とBLUETOOTH対応ヘッドホンをできるだけ近づけてください。

- 本機とBLUETOOTH対応ヘッドホンを再度ペアリングしてください。
BLUETOOTH対応ヘッドホン側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。「ペアリング済みヘッドホンを機器リストから削除する」(31ページ)をご覧ください。
- ペアリング情報が消えている場合があります。もう一度ペアリング操作を行ってください(30ページ)。

つないだBLUETOOTH対応ヘッドホンから音が出ない

- バースピーカーのBLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(27ページ)。
- 本機とBLUETOOTH対応ヘッドホンができるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 本機とBLUETOOTH対応ヘッドホンとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH対応ヘッドホンの位置を変えてください。
- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH対応ヘッドホン側の音量を上げてください。
-  [設定する] → [詳細設定] → [Bluetooth設定] → [ワイヤレス再生品質] を [LDAC接続優先(自動)] または [SBC接続優先(自動)] に設定してください。

- 著作権保護コンテンツとして保護されているコンテンツは出力されないことがあります。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

- バースピーカーのリモコン受光部に向けて操作してください(8ページ)。
- リモコンと本機との間の障害物を除いてください。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください。

テレビのリモコンが機能しない

- IRリピーター機能を有効にすることで改善する場合があります。詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

その他

HDMI機器制御機能が正しく働かない

- 本機との接続を確認してください(16ページ)。
- テレビのHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- しばらく待ってから操作してください。本機の電源コードを抜き差ししたときは、操作が可能になるまで時間がかかります。15秒以上待ってから操作してください。
- 本機につないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください。

→ 本機につないだ機器のHDMI機器制御機能を有効にしてください。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- HDMI機器制御機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。
- ー 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで
 - ー 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで（本機がそのうちの1台を使用します）
 - ー チューナー関連機器：4台まで
 - ー オーディオシステム（AVアンプ／ヘッドホン）：1台まで（本機が使用します）

表示窓に5秒間【PRTCT（プロテクト）】と点滅表示され、本機の電源が切れる

- 電源コードを抜き、本機の通風孔がふさがっていないか点検してください。

表示窓に【PRTCT（プロテクト）】、【PUSH】、スピーカーの名前（【SUB】、【RL】または【RR】）、【POWER】が順番に点滅表示される


- 表示されているスピーカー（【SUB】：別売のサブウーファー、【RL】：別売のリアスピーカー左、【RR】：別売のリアスピーカー右）の⏻（電源）ボタンを押して電源を切ってください。別売のリアスピーカーの場合は、電源コードを抜いてから、電源を入れ直してください。別売のサブウーファーの場合は、電源コードを抜いてから、スピー

カーの通風孔がふさがっていないか確認したあと、電源を入れ直してください。正しく本機とつながると、バースピーカーの表示窓は通常表示に戻ります。

表示窓に【HIGH】、【TEMP】、【ERROR】が順に2秒ずつ点滅表示し、【STANDBY】が表示され、本機の電源が切れる

- 本機内の高温状態を検出しています。
⏻（電源）ボタンを押して本機を再起動してください。

表示窓に【BT TX】と表示される

- 【設定する】→【詳細設定】→【Bluetooth設定】→【Bluetoothモード】を【受信】に設定してください。【Bluetoothモード】を【送信】に設定している場合は、表示窓に【BT TX】と表示されます。


テレビの各種センサーが正常に動作しない

- バースピーカーの置きかたによっては、バースピーカーがテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置までバースピーカーをテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。



無線機能（BLUETOOTH機能、無線LAN、別売のサブウーファー／リアスピーカー）が不安定

- 本機の周辺にテレビ以外の金属物を置かないください。無線機能に影響が出る場合があります。

急に知らない音楽が再生された

- 店頭用内蔵音源が再生されている可能性があります。バースピーカーの （入力切換）ボタンを押すと再生が停止します。

電源を切ることができない、または「詳細設定」が使えない／バースピーカーの （電源）ボタンを押すと表示窓に「[DEMO]」と表示され電源を切ることができない


- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します（59ページ）。バースピーカーの （電源）ボタンと （音量）ボタンを5秒以上押してください。

本機が再起動する

- 解像度の異なるテレビとつながると、映像出力の再設定のために本機が再起動する場合があります。

初期化する



「故障かな？と思ったら」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

- 1 ホームボタンを押す。
テレビ画面にホームメニューが表示されます。
- 2 ホームメニューで 「設定する」→「詳細設定」を選ぶ。
- 3 「設定初期化」を選ぶ。
- 4 初期化したい項目を選ぶ。
- 5 「実行」を選ぶ。

初期化をキャンセルする

手順5で「中止」を選びます。

ホームメニューで本機を初期化できない場合

- 1 バースピーカーの （電源）ボタンと （音量）ボタンを同時に5秒以上押す。
設定が初期化されます。

ご注意

初期化により別売のサブウーファーやリアスピーカーとの接続が切断される場合があります。その場合は、別売のサブウーファーやリアスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

その他

主な仕様

サウンドバー (HT-A7000)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

フロントL／フロントRスピーカーブ
ロック：45.5 W（各チャンネル6 Ω、
1 kHz）

フロント内部L／Rスピーカーブロッ
ク：45.5 W（各チャンネル6 Ω、
1 kHz）

センタースピーカーブロック：45.5 W
(6 Ω、1 kHz)

トップL／トップRスピーカーブロッ
ク：45.5 W（各チャンネル6 Ω、
1 kHz）

サブウーファーブロック：45.5 W（各
チャンネル6 Ω、100 Hz）

ビームトゥイーターL／ビームトゥイ
ーターRスピーカーブロック：45.5 W
(各チャンネル6 Ω、15 kHz)

入力

HDMI入力**（1/2）

アナログ入力

TV入力（OPT）

出力

HDMI出力（TV（eARC/ARC））**

S-センター出力

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定に
よる測定値です。

** HDMI入力1/2端子とHDMI出力（TV
（eARC/ARC））端子はHDCP 2.2規格と
HDCP 2.3規格に対応しています。HDCP
2.2とHDCP 2.3規格は4K画像などのコン
テンツ用に新しく強化された著作権保護
技術です。

HDMI部

端子

19ピン標準コネクタ（Type A）

USB部

⚡（USB）端子：800 mA

Aタイプ（USBメモリー）

無線LAN部

通信方式

IEEE 802.11 a/b/g/n/ac

使用周波数帯域

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.5.0

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約30 m¹⁾

登録台数

9台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯（2.4000 GHz ～
2.4835 GHz）

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP（Advanced Audio
Distribution Profile）
AVRCP（Audio Video Remote
Control Profile）

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC⁵⁾、LDAC

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）

20 Hz ～ 40,000 Hz（LDAC 96 kHzサン
プリングかつ990 kbpsで伝送時）
20 Hz ～ 20,000 Hz（44.1 kHzサン
プリング時）

1) 通信距離は目安です。周囲環境により通
信距離が変わる場合があります。

2) BLUETOOTHプロファイルとは、
BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標
準化したものです。

3) 音声圧縮変換方式のことです。

4) Subband Codec の略です。

5) Advanced Audio Codingの略です。

フロントL／フロントR／センター ピーカー部

使用スピーカー

46 mm × 54 mm コーン型

形式

アコースティックサスペンション型

内蔵サブウーファース部

使用スピーカー

51 mm × 97 mm コーン型

形式

バスレフ型

トッPL／トッPRスピーカー部

使用スピーカー

46 mm × 54 mm コーン型

形式

アコースティックサスペンション型

ビームトゥイーター部

使用スピーカー

16 mm ソフトドーム型

形式

音響管型

一般

電源

AC 100 V、50 Hz/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：65 W

〔ネットワーク／Bluetoothスタンバイ〕 → 〔入〕：2.4 W以下

〔ネットワーク／Bluetoothスタンバイ〕 → 〔切〕：0.5 W以下*

* 〔スタンバイスルー〕が〔切〕のとき、または〔スタンバイスルー〕が〔自動〕でつないでいるテレビの電源がオフのとき

最大外形寸法*（約）（幅／高さ／奥行き）

1,300 mm × 80 mm × 142 mm

* 突起部除く

質量（約）

8.7 kg

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

オーディオのストリーミング元デバイス

- iOS 11.4以降搭載のiPhone、iPadまたはiPod touch
- tvOS 11.4以降搭載のApple TV 4KまたはApple TV HD
- iOS 11.4以降搭載のHomePod
- iTunes 12.8以降またはmacOS Catalina 搭載のMac
- iTunes 12.8以降搭載のパソコン

ワイヤレストランスミッター／レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification version 4.0

使用周波数帯域

5 GHz 帯

変調方式

OFDM

付属品

- リモコン（1）
- 単4形マンガン乾電池（2）
- 壁掛けテンプレート（1）
- HDMIケーブル（4K、8K伝送対応）（1）
- テレビセンタースピーカーモードケーブル（1）
- 電源コード（1）
- 壁掛け用ブラケット（2）、ネジ（2）
- スタートガイド
- 取扱説明書（本書）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

再生できる音声 ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	.mp3
AAC/HE-AAC	.m4a, .aac, .mp4, .3gp
WMA9 Standard	.wma
LPCM	.wav
FLAC	.flac
DSF	.dsf
DSDIFF*	.dff
AIFF	.aiff, .aif
ALAC	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

* DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録音状態、またはその他の状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 名前やメタデータによっては、ファイルやフォルダーを認識できないことがあります。
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーなど）を認識します。

入力できる音声フォーマット

入力できる音声フォーマットは、本機がどの入力に設定されているかによって異なります。次の表で「○」の場合はその音声フォーマットに対応しています。「—」の場合はその音声フォーマットは非対応です。

フォーマット	HDMI1/2 入力	TV入力 (eARC)	TV入力 (ARC)	TV入力 (OPT)
LPCM 2ch	○	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	○	—	—
LPCM 7.1ch	○	○	—	—
Dolby Digital	○	○	○	○
Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Digital Plus	○	○	○	—
Dolby Atmos	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby TrueHD	○	○	—	—
Dolby Atmos - Dolby Digital Plus	○	○	○	—
DTS	○	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、 DTS-ES Matrix 6.1	○	○	○	○
DTS 96/24	○	○	○	○
DTS-HD High Resolution Audio	○	○	—	—
DTS-HD Master Audio	○	○	—	—
DTS:X	○	○	—	—
MPEG-2 AAC	○	○	○	○
MPEG-4 AAC	○	○	○	○

ご注意

HDMI入力1/2端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコピープロテクションが含まれる音声フォーマットには対応していません。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

－BLUETOOTH標準規格Ver. 5.0

対応BLUETOOTHプロファイル：

－A2DP (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。

－AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音楽／音声の再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約30 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g/n) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- －本機とBLUETOOTH機器を接続するとき、他の無線LAN搭載機器

から10 m以上離れたところで行う。

－10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- －病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- －自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入っ

たり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

- 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または本機を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

- 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 設置時、本機と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - 熱器具に近づけない。加熱しない。
 - 移動させるときは、電源コードを抜く。
 - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- ➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、本機が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると本機の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の角でけがをしないようにお気を付けてください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

医療機器に近づけない

本製品（付属品を含む）は磁石を使用しているため、ペースメーカー、水頭症治療用圧可変式シャントなどの医療機



禁止

器に影響を与える恐れがあります。本製品をこれらの医療機器をご使用の方に近づけないでください。

これらの医療機器を使用されている場合、本製品のご使用前に担当医師にご相談ください。

インターネット接続に関するご注意

本製品のネットワークへの接続には、ルーターを介した接続、もしくは同機能を有したLANポートへの接続をしてください。このような接続をしない場合、セキュリティ上の問題を生じる可能性があります。

本機に強い衝撃を与えない

本機には強い衝撃や過度の力を与えないでください。ガラス素材を採用していますので、欠けや割れが発生するとけがの原因になります。その場合には直ちに使用を中止し、破損部には手を触れないようご注意ください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

⚠ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



禁止

- 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけだの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけだの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、
下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、
ショートして電池が発熱や破
裂をしたり、液が漏れたりし
て、けがややけどの原因とな
ることがあります。



指示

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入
れてください。

使い切ったときや、長期間使用 しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、
けがややけどの原因となるこ
とがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - ー 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - ー チューナーやテレビ、ビデオデッキと一っしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - ー 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 壁掛け時は、下から3 cm以上の高さに取り付けてください。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出ることがあります。
- 電気通信事業法により、無線モジュールの変更は禁止されています。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。

研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS4/OF4

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と

してDS-SS変調方式およびOFDM変調
方式を採用し、与干渉距離は40 mで
す。

2.4FH4/XX8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH4はFH-SS変

調方式を採用し、与干渉距離は40 mで
す。XX8はその他方式を採用し、与干
渉距離は80 mです。

IEEE802.11b/g/n**IEEE802.11a/n/ac**

J52	W52	W53	W56
----------------	-----	-----	-----

IEEE 802.11a/b/g/n/ac準拠
(W52/W53/W56)

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信
システムの無線設備として、認証を受けて
います。従って、本機を使用するときに無
線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せら
れることがあります。

- 本機を分解／改造すること

第三者が提供するサービスに関する 免責事項

本製品に搭載され、または本製品で利用可
能なネットワークサービス、コンテンツお
よびソフトウェア（オペレーションシステ
ム含む）には、各々の利用条件が適用され
ます。予告なく提供が中断・終了したり、
内容が変更されたり、ご利用に際して別途

の登録や料金の支払いが必要になる場合が
ありますので、ご了承ください。

アップデートに関する注意

本機は、無線LANでインターネットに接続
してご使用になる場合、ソフトウェアを自
動で最新にアップデート（更新）する機能
を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追
加されたり、より便利かつ安定してご使用
になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたく
ない場合は、スマートフォン／タブレットに
インストールしたSony | Music Center
を使って、本機能を無効にすることができ
ます。

ただし、本機能を無効にしても、安定して
ご使用いただくため等により、ソフトウェ
アを自動でアップデートすることがありま
す。

また、本機能を無効にしても、お客様の操
作で、システムソフトウェアをアップデー
トすることは可能です。

詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご
使用いただけない場合があります。

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、およびDTS**デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Vision、Dolby AtmosおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの登録商標です。

非公開機密著作物。著作権2012-2020年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

** DTSの特許については、<http://patents.dts.com>をご覧ください。
本製品はDTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS:X、およびDTS:Xロゴは、米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。

© 2020 DTS, Inc. 版權所有

BLUETOOTH®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

Google、Google Play、Google Home、Chromecast built-in、およびその他の関連

するマークやロゴは、Google LLCの商標です。

Apple、AirPlay、iPad、iPhoneおよびiPod touch は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。

「Works with Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたテクノロジー専用に対応し、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。

「ブラビアリンク」および「BRAVIA Link」ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

ウォークマン®、WALKMAN®、WALKMAN®ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標または商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

Wi-Fi®、Wi-Fi Protected Access®および Wi-Fi Alliance®は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、および、WPA2™は、Wi-Fi Allianceの商標です。

LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。


LDACは、ソニーが開発したハイレゾ音源を Bluetooth経由でも伝送可能とする音声圧縮技術です。

SBC等の既存Bluetooth向け圧縮技術とは異なり、ハイレゾ音源を低い周波数・低いビット数へダウンコンバートすることなく処理します*。また極めて効率的な符号化やパケット配分の最適化を施すことで、従来技術比約3倍**のデータ量の送信を可能とし、これまでにない高音質のBluetooth無線伝送を実現しています。

* DSDフォーマットは除く。

** 990kbps (96/48kHz) または909kbps (88.2/44.1kHz) のビットレートを選択した場合のSBC (Subband Coding) との比較。

本機には、GNU General Public License (“GPL”) または GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれております。このため、お客様には GPL/LGPL の条件に従って、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

GPL または LGPL、その他、本機に含まれるソフトウェアのライセンスについて詳しくは、本機の  [設定する] → [詳細設定] → [本体設定] → [ソフトウェアライセンス] をご覧ください。

本製品に含まれるソフトウェアには、GPL v2およびソースコードの提供を伴うその他のライセンス条件のもとでライセンスされたソフトウェアが含まれています。GPLv2

等に基づき、ソニーがソースコードを提供すべきソフトウェアのソースコードは以下のサイトからダウンロードできます。DVD-ROM等の有体媒体に記録されたソースコードをご希望の方は、同じく以下のサイトのフォームからお申込み下さい。ソースコードの提供は本製品の最終出荷日から3年以内にご要望を頂いた場合に限りさせていただきます。

<http://www.sony.net/Products/Linux/>

“TRILUMINOS” および“TRILUMINOS” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

Spotifyのソフトウェアには下記のサードパーティライセンスが適用されます。
<https://www.spotify.com/connect/third-party-licenses>。
SpotifyおよびSpotifyロゴはSpotifyグループの商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「故障かな？と思ったら」の項を参考にし、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

ボタン

音声切換 40
ナイトモード 38
ボイス 38
本体表示 45
BLUETOOTH 26
IMMERSIVE AE 36

数字

2か国語放送 40

あ行

音声ファイル 62
音声フォーマット 63
音量 35

か行

壁掛け 13
かんたん設定 46
基本的な設定 46

さ行

サウンドモード 37
接続（「索引」の「有線接続」または
「無線接続」をご覧ください。）
設置 13
設定
項目 47
初期化 59
設定初期化 59
ソフトウェアアップデート 48

な行

ナイトモード 38

は行

“ブラビアリンク” 44
ボイスモード 38

ま行

無線接続
テレビ 23
ヘッドホン 30
BLUETOOTH 機器 26

や行

有線接続
ウォークマン® 29
テレビ 16
AV 機器 18
USB 機器 28

ら行

リモコン 10

アルファベット

ARC 9
BLUETOOTH
機能 26
ペアリング 26
DTSダイアログコントロール 41
eARC 9
HDMI機器制御 42
Immersive Audio Enhancement 36
PRTCT（プロテクト）58
USB機器 28

型名：HT-A7000

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル
………… 0120-333-020

携帯電話・PHS・一部のIP電話
………… 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル
………… 0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話
………… 050-3754-9599

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「3 0 6」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつながします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

COMPATIBLE WITH

dtsh

Dolby Vision

LDAC

Dolby Atmos

HDMI



Works with

Apple AirPlay

 Chromecast built-in



* 5 0 2 4 8 3 3 0 3 * (1)